

CULVERT PARK

カルバートパーク

キッズデザイン賞 2022 受賞





土木にふれあうことのできる屋内公園

建設会社による全天候型公園である。創業地に土木の技術力や魅力を伝え、且つ「地域に恩返し」が出来る場所をつくりたいという思いから、子育て世代や高齢者など、地域の方が気軽に立ち寄れる場所を計画した。

土木環境を建築空間に転化する試みとして、普段目にする機会の少ない土木資材「ボックスカルバート」を顕在化させた空間は、土木の圧倒的なスケール感が感じられる。子ども達が大地（土木）を身体で感じられるよう、砂場や芝生などの遊戯機能を屋内に設置し、安心安全に遊ぶことが出来る場所となっている。また、家事の一助となるランドリーやベーカリーなどの機能を併設することで、子どもだけでなく、親や高齢者、働く人や休息する人など、それぞれの居場所が介在する空間が生まれた。



子どもが遊ぶ姿をガラス手摺外から見守ることが可能



各エリアを分節しつつ緩やかにつなげるボックスカルバート



働き幅を変えた鋼板張りの内外壁は地層を連想させる



河川に囲まれ、地下水位が高く液状化しやすい地域

物件概要

敷地：愛知県海部郡蟹江町
 延床面積：444㎡
 主な機能：砂場、人工芝エリア、ランドリー、ベーカリー
 対象：誰でも利用可能
 開業：2021年11月
 営業時間：9:00-16:00
 休館：日曜、月曜、祝日

課題 1

子育て世代の居場所不足
子どもが伸び伸びと過ごせる場所不足

既往調査がデータで示すように、子どもを持つ親の多くが子どもが自由に遊べる屋外空間の量が少ないと感じている。計画に際して実施した、社員や子育てママ、地元企業などを交えたワークショップと子育て関連の NPO 法人へのヒアリングからも同様の声が挙がり、子どもが自由に遊べる場所の必要性を感じた。

● ワークショップの開催

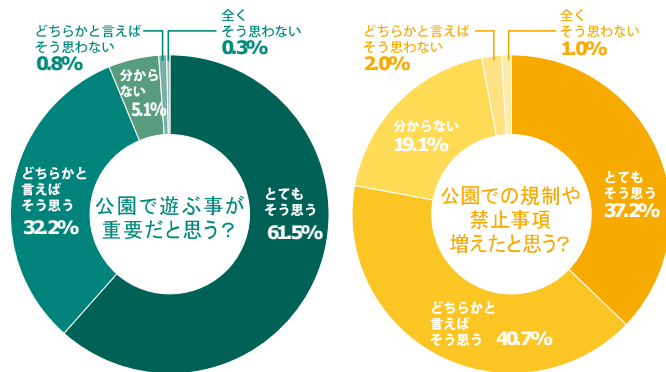


〈求められている機能〉

子育て世代・高齢者の居場所づくり
「パンのまち蟹江」を盛り上げる地域連携空間
家事スペースやランドリー空間
カフェベーカリー空間

地域コミュニティや環境への貢献のためにどのような施設内容にするべきかのアイデアをワークショップで話し合った。子どもや子連れが日常的に過ごせる場所が少ないこと、憩えるような飲食空間が近隣に少ない事等が共有された。

● 公園に関する意識調査



データ概要

調査方法：インターネット調査
調査地域：北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄の8エリア
調査対象：3～12歳の子どもの持つ20～40代の親
有効回答数：計1600サンプル
調査時期：2017年4月中旬
実施主体：樹ボ-ネルンド
参照 URL：
<https://www.bornelund.co.jp/pressrelease/2017/page/3>

近年多発している事故やトラブルに対する不安から、公園内での禁止事項や規制が増え、子どもが自由に遊べる環境が減っていることが明らかになっている。しかし親世代からは、子育て環境として自由に遊べる公園のニーズは高く、安心して子どもを遊ばせる環境の創出が求められている。

課題 2

建設事業＝自然破壊というイメージの払拭
子どもが土木を知る・触れる機会の創出

土木事業は、人々の生活を支える身近な領域であり、生活と密接な関係があるにも関わらず、人々が普段意識することが少ない現状がある。また、巨大インフラを建設するイメージが強いため、自然を破壊している事業として捉えられることも少なくない。しかし、豊かな未来の国づくりのためには新たな社会環境の創造が求められており、それには最先端の建設技術が大きな役割を果たすと考えている。我々は環境に配慮し、自然の力を活かす技術開発によって、自然に歩み寄る建設会社を目指している。建設会社だからこそできる「人と自然の架け橋」となる空間を通して、未来を担う子どもたちが豊かさや自然を実感できる場の可能性を提案したい。

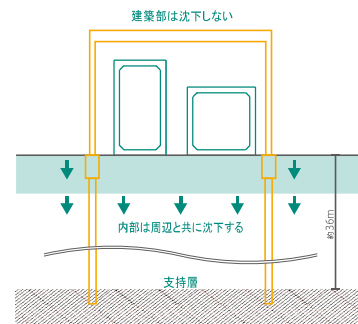
● 周辺環境とつながる仕掛けを施した構法



『基礎の考え方』



『沈下を許容し、周辺と連動する』



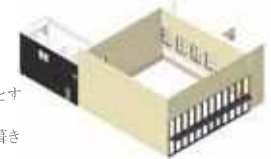
『屋外のような光をもたらす屋根』

トップライトを均一に配置。天井面のアルミパンチングメタルにより、柔らかく拡散する光で内部空間を満たす。



『屋外と同じ仕上材を連続させた内壁』

道路側は開放的な全面ガラス張りとする。働き幅を変えたガルバリウム鋼板鉄骨仕上げが地層のような表情を生む。



『骨格は軽快なフレーム』

内部に設置するボックスカルバートと対比的な構造とするため、小径材で軽快なフレームとする。



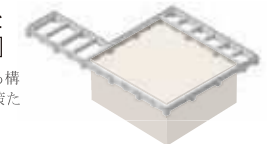
『居場所をつくるボックスカルバート』

土木の力強さ・安心感を象徴するボックスカルバート。大空間を分節しつつ、空間に方向性と興行きを演出する。



『周辺と共に沈下する床と沈下しない基礎』

メイン空間は周辺地盤と連動する構造としている。ただし、液状化対策ため、深さ約7mの地盤改良を行う。





コインランドリー近くのテーブル席からは家事をしながら子どもを見守ることが可能

● 親子で楽しめる仕掛けづくり



土や資材に触れ土木に興味を持ってくれることを企画



カルバートの見晴台には自由に上がることが可能



子どもがワクワクする建設重機模型の展示



一日中賑わうベーカリー/カフェ



人工芝の傾斜が子どもたちを楽しませる



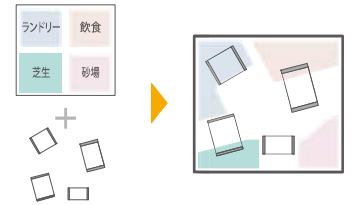
遊び場と仕事場が混ざり合う多様性のある空間

● 親子の居場所をつくるための設計手法

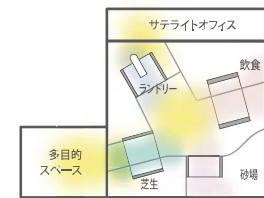
[建築スケールと土木スケールの融合]



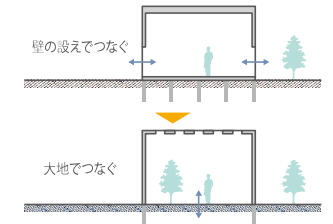
[分節しつつ一体感をもたらず配置]



[街のように滲み出す境界]



[大地で繋がる時間と空間]



1階平面図



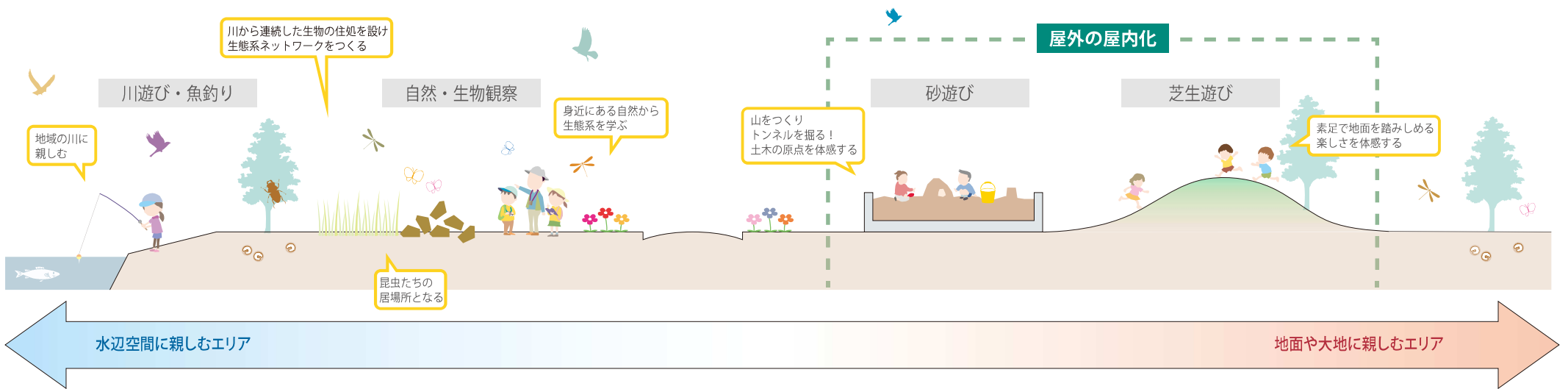
2階平面図

将来構想

地域環境との共生・子ども達が自然を学べる環境拠点として整備

第II期

第I期
(今回の応募作品)



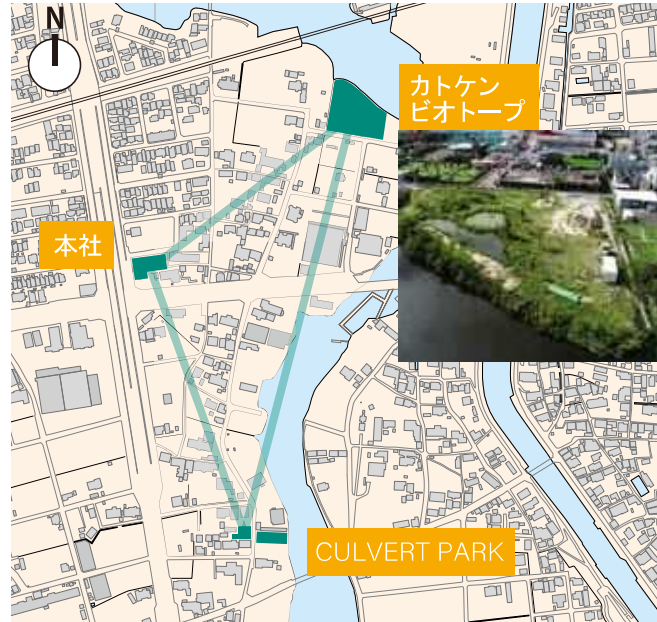
建設業が持つ負のイメージを払拭するため、工事現場において自然の生き物や地域に配慮して、自然環境の保全と再生、地域住民配慮、コミュニティづくりを実践している。そのノウハウを活かして、CULVERT PARK が面する佐屋川の上流には、「カトケンビオトープ」と名付けた生き物の居場所となる広場空間をつくっている。地域の生物多様ネットワークが広がるように CULVERT PARK でも環境共生拠点となる構想を描いている。ビオトープや広場では、地域の子どもたちを対象に、建設や自然に親しむイベントの開催などを予定している。



自然観察教室の開催



建設重機の体験乗車



CULVERT PARK とその他施設との位置関係図

SNS 等でのユーザー反応



出展：https://yatomi.localinfo.jp/posts/24191316/

SNS 投稿では、未就学児を持つ母親世代から、「室内だから何処かに行く心配がなく、寒くも暑くもない」「高低差のある芝生は色々な楽しみ方ができる」「ペーカー併設なので一日中楽しめる」等といった、好意的なコメントが目立っている。